

第15回 第1分科会会議録（概要）		場 所	新宿区区役所第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成18年1月26（木） 午後6時30分～午後8時30分	記録者	【学生補助員】 平山 清美 古谷 聡子
		責任者	区事務局（菊地、並木）
<p>会議出席者：25名 （学識委員：1名 区民委員：17名 区職員：4名 傍聴者：3名）</p>			
<p>■配布資料</p> <p>① 新宿区民会議 第1分科会（第15回）次第 ② 第14回会議録 ③ 外国籍住民への支援（区民委員提案） ④ 第16回・17回開催通知 ⑤ 新宿区民会議 第2回全体会（中間発表会）の開催について ⑥ 小学生フォーラム・中学生フォーラムからの意見 ⑦ 企業とNPOの子育て支援協働推進セミナー2006・東京</p> <p>■進行内容</p> <p>1 本日の進め方について 2 中間発表会ワーキンググループ（以下WGと標記）からのお知らせ 3 外国籍住民への支援について 4 グループ討議 5 グループ討議内容の発表 6 その他（事務局）</p> <p>■会議内容</p> <p>【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員</p> <p>1 本日の進め方 ●：（司会 高山） それではこれから、新宿区民会議第15回を始めさせていただきます。 まず、進め方についてです。3つにグループ分けされてから、今までの2回の分科会でグループ討議を行ってきましたので、今日はそのまとめをしていただきます。その後、まとめたことを7時30分から各グループ6分間で発表していただきます。その際に、まとめたものを文章化していただくと、後日の起草委員の整理はしやすくなります。 グループ討議の前に、外国籍住民への支援について小林委員から5分程度報告していただきます。そちらの資料は配布してありますので（資料③）、ご覧ください。</p>			

グループ討議後、学識の杉山委員から講評をいただいて、8時20分から事務局からの事務連絡とさせていただきます、8時30分に終了したいと思います。

2 中間発表会WGからのお知らせ

第1分科会から第6分科会までの代表のWGの会合が行われまして、中間発表会のポスターとチラシが決まりました。ポスターやチラシは、既に区の関連施設に送られています。皆さんの中で個人的に貼れる場所や配布できる団体がありましたら、本日の最後にもう一度説明しますので、事務局からもらってください。

次に、中間発表会での第1分科会の発表の順番が決まりました。4番目になりました。当日は第2部として、午後1時間程度の意見交換の場を設けています。私個人の意見ですが、これは重要な場であると思っています。第1分科会は第1分科会らしい意見交換の場を考えていきたいと思っています。意見交換の場が楽しいものになればと思っています。

起草委員で、今日まとめたものと以前提出したレポートを参考に中間発表会用の資料を作成します。したがって、次回の2月9日の区民会議までの間に各グループの代表者と第1分科会リーダー・サブリーダーは集まって、中間発表会の資料をまとめたいと思います。

3 外国籍住民への支援について

●：(小林)

今まで外国籍の親と子どもの報告や発表等がなかったので、今回、紹介をさせていただきます。(資料③参照)

私は現在、外国籍の親と子どもの問題について活動をしてきました。現在、大久保小学校において、土曜日の午前中に外国籍の親と子どもを集め、日本語を教え、それを通しての居場所づくりを一昨年の12月から行っております。その中で気づいた問題点について、お配りの資料にまとめましたのでご覧ください。

まず、子どもについての問題点を述べます。

在住外国人児童・生徒に関する問題

1. 放課後、子どもの居場所がない。現在、児童館については、学童クラブの登録に日本人の子どもからの応募が多く、大変厳しい状態であることは、皆さんご承知されていると思います。その中であって、外国籍の子どもたちやその親たちには児童館の情報が十分に伝わっていない。また、言語の問題もあり、児童館に行っても日本人の子どもたちと上手く馴染めないという問題もあります。

外国籍の子どもたちが児童館に行くことによって、日本人の立場から見た外国籍の子どもたちへの差別意識がなくなると思うので、外国籍の子どもたちの児童館への受け入れは進めてほしいと思います。

2. 母国語による学習補助者が幼稚園には40時間、小学校には50時間、中学校には60時間、また長期間指導には20時間つくことが現在保証されています。しかし、現実的にはそれだけの時間では、日常会話レベルの日本語すら習得できません。
3. 大久保小学校では日本語学級が2学級、津久戸小学校、戸塚第一小学校、新宿中学校ではおそらく日本語担当教員が1名のみ配置され、それ以外での日本語指導はされていません。それによって、教員が日本語の理解が不十分な児童・生徒に対しての対応ができていない状況です。言語上の問題により、子どもと保護者が教員に不信感を持つなどのケースも見られます。
4. 日本語の習得が不十分なため、教科学習についていけない生徒は高校受験にも挑戦できません。よって、ドロップアウトをしてしまう、不就学の問題があります。

こうした点についての私なりの提案がその下に書いてあります。

1. 児童館を放課後の学習の場として開放する。これについては、現在榎町児童センターにおいて行っています。
2. 教科指導のボランティアの確保として、退職教員の人材を充てることはできないのかと考えています。
3. 教員に対する、外国人児童・生徒への対応研修の実施ができないか。
4. 高校進学ガイダンスは現在中学生に対して行われていますが、規模が小さいものです。これからは、進学ガイダンスを幼稚園から行い、教育委員会だけでなく、それ以外の民間の機関等とも協力して実施すべきではないか。

次に子育て支援の問題点について述べます。

1. 在住外国人の子育て親子は、日本人の子育て親子と同様に居場所がない。特に中国、韓国の方たちに関しては相互扶助があるのですが、それ以外の国の方に関しては在住者が少ないため、より居場所がないのが現状です。
2. 特に母親の仕事が夜の場合、子どもを1人で自宅に置いているという現状があります。
3. 親についても日本語が十分話せないため、低賃金労働に甘んじている傾向があります。
4. 特に小さな子どもを持つ母親は、日本語を十分に習得する機会が得られない。
5. 言語問題のため、予防接種や学校案内等の子育てに関する情報が入りにくい。
6. 新宿区は在住外国人が多いため、彼らに対する政策が進んでいると思われがちですが、実際は愛知県や長野県、群馬県などの地域が進んでいます。例えば、長野県においては、先ほど話した高校進学ガイダンスについては県規模で行われています。

それらについての解決案の提案として、以下にまとめました。

1. 在住外国人の親も日本人の親と同様な悩みや問題をかかえており、区はそれらを認識してほしい。そこで、彼らの居場所の確保が必要となります。去年9月に新宿区では「しんじゅく多文化共生プラザ」がオープンしましたが、子育て中の親にとっては、居場所とはなりえていません。
2. 居場所ができることによって、子育て中の親にも日本語指導ができる場所や機会がつくれます。
3. 区が在住外国人の子育て中の親に職業訓練をすることにより、高い賃金が得られるようになり、経済的保障となります。
4. 在住外国人の子育て中の親と日本人の子育て中の親との交流の場をつくることで、小さい頃から子どもたちが遊んでいれば、子どもたちに差別や偏見が生じません。以上です。

● : (司会 高山)

ありがとうございました。

それでは、これからグループ討議に入ります。

4 グループ討議

5 グループ討議内容の発表

● : (司会 高山)

発表の時間となりました。いろいろ議論が尽きないところかもしれませんが、一時中断していただき、今まで、まとめていただいたことをご説明いただきたいと思います。

事前に各グループからお話をうかがいましたところ、「親への支援」グループの資料は、まとまっているということですので、一番目の発表をお願いしたいと思います。次に「中高生・青少年」グループ。最後に、「乳幼児・小学生」グループにしたいと思います。それでは、「親への支援」グループからお願いします。発表時間は6分間とします。5分経過で1鈴、6分経過で終了の鈴がなりますので、よろしくお願いします。

(各グループのまとめを杉山委員が板書。各グループ発表の後にそれを記す。)

● : (親への支援 柏木)

今日はグループのメンバーが、それぞれ別の会議等に出ておりましたので、どうしても分科会に出席できないということでしたので、私が代理で発表いたします。

今週の月曜日にグループの委員は集まりまして、今までの議論の総括をし、再度、見直しました。全体としては、「ホップ・ステップ・ジャンプ」の中で、「ステップ」

と「ジャンプ」を逆にしました。親が何を知りたいのか、どういうことを求めているのか、親になるための教育とは何なのか、親からの相談を受ける人はどういう人がいるのか、といったことから始めました。どんな悩みがあっても相談できる、話ができる、そこに参加できるという場所づくりを第一に考えました。その結果、「ホップ」を「始めの一步 知ることが大切」に置き換えました。子育ての先輩たちから色々な話を聞くということがひとつあります。地域には「おせっかい屋さん」というか、人の面倒をよくみってくれる人が、まだまだ、たくさんいます。そういった人たちを集めます。同時に、高齢者の知恵を拝借します。特に、親に必要な教育というのは、昔から伝えられていることが多いので、この中で一緒に考えたらどうかという提案です。

特に、先ほど説明がありました小林委員からの提案にもありますように、新宿区民の感覚から言えば、外国人も日本人も同じ区民なのです。外国人だからといって差別があるのはいけません、言語による意思疎通の差があります。その差をどう埋めるかということが、今後の課題になると思います。こうしたことを最初の「ホップ」の中でまとめました。細かい内容は、次の段階にしたいと思います。

「ステップ」としては、妊娠して親となる人たちが、子どもを産む前にどういう場所で、どういうことをしたら良いのかが大きな課題となります。私の家では、お嫁さんが妊娠をした時に病院で、初産の妊婦から2人目、3人目の出産の先輩たちが集まって、出産や育児の話し合いをしていたそうです。そういうものを地域の中にもつくりたいということです。親として安心・安全な状態で子どもが産めることを目指します。

さらに、子どもを産んだ後はどうするかということですが、まず、妊娠したら母子手帳の交付を受けます。その際に、「プレ親教室」という集まりについても紹介します。また、出産・育児に関するさまざまな配布物については、外国人にもわかりやすく多言語で作成します。特に出産から28日目の28日検診の際には、検診時にヘルパー派遣の希望の有無をハガキ等で案内するなど、安心して子育てできる誘導策をつくったらどうかという提案が「ステップ」になります。加えて「ステップ」の中には、そこで子育ての知識や情報を教えてもらった親たちが、次の親となる人たちへの助っ人になるようなシステムを構築したらどうかという提案もあります。システムが初期の段階では、行政が育児に関する人材を研修し、育てることも必要ではないかと考えます。

最後に「ジャンプ」ですが、親としてこれから何をやるかということです。親についての問題は、これからは地域全体で考えようということです。親のたまり場、意見交換の場をしっかりとつくり、さまざまな人たちのさまざまな意見を聞く機会を設けます。企業から親や子の遊び場、たまり場、学校以外の子どもの教育の場についての意見を聞くことも、これからは必要ではないかと思えます。そしてそれを誰が行い、誰が指導するのか、どうやって人材を集めるのかということが大きな課題となります。

(板書)

親への支援

ホップ・ステップ・ジャンプ

ホップ

- ・親の現状を知ることが大切
- ・支援したい人、高齢者の力を借りる
- ・何でも相談できる場
- ・差別なく、すべての区民

ステップ

- ・妊娠中からのアプローチ
- ・先輩ママとの交流
- ・外国人への配慮
- ・安心しての子育てできる環境整備

ジャンプ

- ・先輩ママが新しい親にアドバイスできるよう研修
- ・「地域」「まちづくり」の認識をみんなが持てるようにするには？

● : (司会 高山)

ありがとうございました。

6分間の発表時間の感覚はこのような感じです。これから、順次発表するわけですが、3つのグループの発表を終わると、だいたい20分になります。中間発表会において第1分科会が発表できる時間は、この時間内ということを知っていただきたいと思います。

それでは、二番目の「中高生・青少年」グループの発表をお願いいたします。

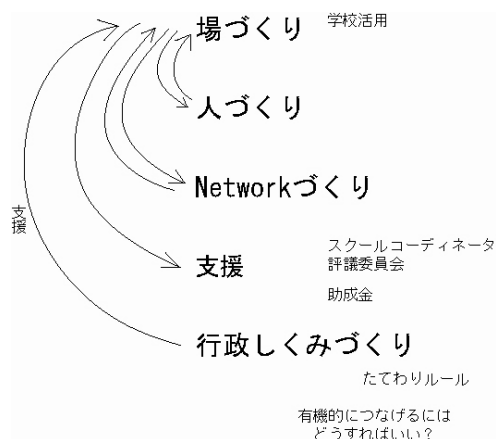
● : (中高生・青少年 山田)

区から提出いただいた提案整理表（現行の行政施策）を見ていまして、いろいろと細かい点に渡って、行政において既に行われているようです。中高生・青少年の課題は、さまざまな点で重複している点や複雑にからみあってくる点があるので、もっとシンプルに考えようということになりました。

(以下、次ページ右図参照)

大きく分けると、「場づくり」、「人づくり」、「ネットワークづくり」、「支援」、「行政のしくみづくり」というような5つに分かれるのではないかという意見が出ました。特に考えなければならないことは、いろいろな場づくりについて、「学校」というのは青少年にとっての中心の場であり、学校開放についてもいろいろと議論しました。これも青少年にとっては、ひとつの地域の大人たちとつながりを持てる場である

ということです。ただ、箱モノありきでは、良くない。場づくりの段階では、人やネットワークというものが企画から運営に携わっていなければなりません。ネットワークができてから必要となる場が生まれ、それを利用することで、新たな人が育ち、ネットワークが生まれます。また支援を必要とする人たちにも歓迎されるような、そんなシステムになっていけば良いのではないのでしょうか。ただ、現状は学校開放、校庭開放、その他の居場所



づくりなど、さまざまな試みがあるのですが、どうもうまくいっていないという意見が出ていました。それはなぜなのかという討議をしました。その中での意見として、やはり、行政のセクショナリズム、分担によって相互が踏み込みづらいということがある。また、学校を使うにもそれぞれのルールがあるため、一步踏み込んで有機的な機能をしていないという意見もありました。本来ならば、既にある組織や仕組、例えば学校評議員であり、スクールコーディネーターであり、すでにある仕組は「場づくり」が上手くできるような支援をしなければならないはずなのですが、どうもうまくいっていないようです。「こうあるべきだ。しかし、ここはうまくいっていない。」というような討議をしました。

具体的には、5つに分け直しまして、これらのポイントをもう一度現状に照らし合わせて整理し、次世代育成支援計画を踏まえたうえで、これらが有機的に持続していくためには、どういうことが必要なのかをもう一度まとめるというものです。

例えば、具体的な話として、居場所づくり、校庭開放、スポーツ交流会が合体をします。そして、学校の土日の運営をその三者が協力して行おうとしていますが、上手くいかない。話が進まない。その理由は各々が自分たちの目線で議論をしてしまう。あるいは、学校の先生との上手な協力関係がとれていない場合もあります。また、現実的な助成金の意見も出ました。ここ1年、2年は国と区から助成金がおりにきていたが、それも期限が決められている中で、もっと中期的に持続していけるような運営システムが必要であるというものです。

●：(司会 高山)

ありがとうございました。

それでは、次の「乳幼児・小学生」のグループ、お願いします。

●：(乳幼児・小学生 石井)

今日は、それぞれの委員が現況の中で今後必要と考えていることを出してきました。その中で意見が多かったものがあり、ひとつ柱が見えてきました。それは人材や組織が不足しているということです。今まで新宿区の中では地区協議会、町会、育成

会、まちづくり等、さまざまな活動が行われていますが、各組織の情報が末端の子育て中の区民に伝わってこないということが現実です。ただ、それらの組織をひとつにまとめることは不可能なので、各組織の足りないところを行政と協力して、何かひとつ実践していけることができれば良いのではないかと思います。

次に、区民会議の委員の中で何か組織を立ち上げて、行政と一緒に活動をしていくという意見が出ました。その組織の中ではボランティアチケット化を図ったり、地域ごとにネットワーク化したりします。また、勉強会を開いたり、一般区民も簡単に入ってこられるような場を設けたりもします。具体的にこうしたら良いというところまでの結論には至っていないのですが、そういう場がひとつできると、今まで抜けていた課題に対応できるのではないかという討議になりました。

(板書)

- ・人材、組織不足
- ・一般区民に情報が届かない → 行政との協力で足りないところを補うとよい
- ・ボランティアのチケット化
- ・居場所、学習の場を確保

● : (司会 高山)

ありがとうございました。

このような形で、各グループからの提案をまとめて、中間発表会の場で20分の範囲内で発表したいと思います。

まだまだ、各グループとも検討の時間が足りていないようですが、各グループの代表者と第1分科会のリーダー・サブリーダーは、全体をまとめる作業を次回2月9日の分科会の前までに整理をしたいと思います。本日の会が終わりましたら、日程調整を行いますので、少し残って打ち合わせをいたします。よろしくお願いいたします。なお、中間発表会では第1分科会で40ページまでの資料を作ることになっています。今日までの検討や発表をまとめて、他の分科会の委員や参加して下さった一般区民にも分かりやすい資料作りをしていきたいと思っています。

それでは、杉山委員から今日の講評をお願いします。

◎ : (杉山)

どうもありがとうございました。

今日の発表を聞いていて思ったのは、例えば「親への支援」グループでは、新宿区で、子育てしている親たちにどうなってほしいのか、というようなゴールイメージがあって、だから「ホップ、ステップ、ジャンプ」が必要だという筋書きがあると思います。それを明確に見せることができれば良いのかなと思いました。それは「中高生・青少年」グループも同様で、「新宿区の中高生、青少年はこうだと良いね。将来こんな大人になってほしいよね。」というものが明確になっていたほうが良いでしょう。それ

は「乳幼児・小学生」グループも同じです。夢を出してもらえると、プレゼンテーションとしても良いと思いました。そして、「これをやるとどうなるの」という目標がはっきりすると思いました。ただ、そこはもう、十分に議論されているところなので、提案する時に具体的な理想像を見せてあげると良いと思いました。

次に、先ほど小林委員から意見・提案があったとおり、新宿区の特徴というのは外国人が多いまちです。その外にも、リスクが高いといわれている家庭の問題では、さまざまなタイプの親がいます。その親に対して、あるいは、その子に対してはこうというような柱(施策)が必要です。例えば、「このケースならこの大きな柱(施策)からサポートの手が伸びる。」というような、きめ細やかさがにじみ出るような、「私たちはこの分科会に入っていない区民のことも考えていますよ。」というようなものが見えてくる提案が良いのかなと思いました。

また、「中高生・青少年」グループを見ていて思ったのは、現状は分かりました。さまざまな対策が行政から施策として出ています。けれども、いまひとつ機能していないという現状が意見として出ていました。だとしたら、「どうしたらうまく機能するか」ということが提案できないと、ただ「機能していません」で終わってしまうと思います。ただし、「機能していない。だからこうしたい。私たちの言うとおりに、こうしてください。」というのは無理があります。既にあるものを「どうしたら理想像のようになるのか」という、一番悩む部分でもありますが、その具体的な提案がひとつでもふたつでも出てくれば良いと思いました。

「乳幼児・小学生」グループは、発表の時間をもう少し有効に使ったほうが良いのではと感じました。発表で余った時間をグループの他の委員が補足して話すような対応をすれば良いと思います。

次に、親がホッと安心できるような居場所と親が学びたいと思う居場所と、実は2種類あるのではないかという気がします。その辺りを整理してみると良いのではないのでしょうか。

これは、話題提供なのですが、去年、イギリスに視察に行ってきた時に、「ホームスタート」という活動がありました。今、第1分科会のどのグループも居場所にすごくこだわっています。ですからお話ししたいと思います。居場所に来ることができない人がいて、むしろそっちの方が心配と言われている人のところへ出かけていく人を「ホームビジター」、出かけていくことを「ホームビジティング」、または「アウトリーチ」と言います。それはボランティアで行われており、わりとボランティア意識の高いさまざまな年齢層の方、特に女性が多いのですが、彼らが双子のお子さんがある家庭ですとか、外国籍の方の家庭ですとかに訪問して、家事のお手伝いや子育てのお手伝いをして、新米の親が自立して子育てができるように応援をするという仕組みがあります。日本で一番欠けているのはその部分ではないかと思っています。ですから、「親への支援」グループで提案された「先輩ママが新しい親にアドバイスできるような研修」を

受けて、「ホームビジティング」ができるようになると良いと思いました。

そのようなことは、その気になれば結構早くできるのではないかと考えています。

そこで、私や汐見委員は具体的な事例というのをかなり知っています。もちろん中間発表会までも、それ以降でも、「こんなことやりたいのだけれども、どうしたら良い？」というような相談をしてください。例えば、新宿区が「ホームスタート」を始めるとしたら日本初の事業です。ですから、そういう活動を現状の仕組の中に施策として放り込むためのお手伝いが、きっとできると思います。ですから、まずは「どうしたい」ということを整理して、次の段階で個別でも結構ですから相談していただけたらなと思います。

●：(司会 高山)

ありがとうございました。予定より10分程度早く終わりましたが、今日は学識委員がおひとりでしたので、汐見委員がいらっしゃいましたら、講評を10分お願いするところでした。それでは、学識委員の指摘を踏まえながら、今はグループが分かれています、実際にはこれらをまとめて第1分科会としてひとつの提言にしたいと思います。

2月19日は中間発表会ですが、それ以降の6月に向けてまとめていければと思います。まだ時間がありますので、報告事項を加えます。

1月21日の日曜日に、数人の日本中の子育て関係のNPOの方と第1分科会の有志が「ゆったりーの」に集まり、「子育て支援のひろばづくりとNPOのマネジメントについて」の勉強会を開きました。そこで、活動の報告と話し合いをもちました。30人近くの方が集まり、NPO法人の中では金沢や名古屋、下関などの地方からの方も参加して、どういう活動をしているかのお話をうかがいました。

いろいろなところで子どもを育てる親に場所を提供したり、支援を必要としている親に力添えしたりという活動をしています。それなりにいろいろな悩みもありますし、なかなかマニュアルというものがなく、ケースバイケースで事例にあたって解決策を見つけていっている、または、見つけていく努力をしているようです。財源に関しては、なかなか厳しいし、自分たちでもお金を集められるような形をとりながら活動しているようで、全国でがんばっている現状が見られました。

個人的に感じましたが、子育てに対して問題意識を持っている方々が、我々を含めて共働や参画の意味から、行政側の仕組みがうまく動いていないところや物足りないところをサポートしていければ良いと感じました。

簡単ですが、1月21日の第1分科会の勉強会はそういうことで終わりました。杉山委員も参加していただきました。どうもありがとうございました。

続きまして、事務局のほうからの連絡事項をお願いします。

6 その他(事務局)

○：(菊地)

配布した資料について説明させていただきます。「小学生フォーラム・中学生フォーラムからの意見」をご覧ください。(資料⑥) 毎年実施している事業で、区長と各学校の代表者1名とが懇談を行っております。今年は将来、新宿のまちを担う子どもたちの意見も基本構想等の見直しに反映させようと、新宿区のまちづくりについて意見をいただきました。本日の資料は、私と並木で聞き取りをしたもので、正式な会議録ではありませんが、できる限り記録を取りました。みなさんの議論の参考にしていただければと思います。特に、フォーラムでは、まちづくりの視点での意見が多かったようですので、第1分科会にダイレクトに関わる議論はないですが、子どもたちがどのようなことを考えているのか、新宿区のどのようなところが好きなのかが、読んでいただくと分かりますので、ぜひ参考にして下さい。

次に、第2回全体会(中間発表会)の開催についてです。(資料⑤) 区長から各委員さんへの通知をお配りしました。本来ですと、区民会議の代表の委員が決まっていますが、その委員からのご案内となるのですが、世話人会が正式に立ち上がっていない中なので、区長から区民会議委員に依頼状を出させていただきました。2月19日(日)午前10時から開催です。開場は9時45分からになりますので、準備担当となる委員は9時まで、それ以外の委員は9時45分までに会場にお集まりください。出欠の確認をあらかじめ行いたいので、当日の欠席が分かっている委員は、本日の帰りの際に事務局へ伝えてください。

次に、中間発表会のポスターです。第1分科会用に60枚程度持って来ています。もし自分の会社に貼れるとか、自宅に貼れるという委員は、持ち帰ってPRをよろしくお願いします。また、チラシは、区民会議以外の区民の皆さんにご案内しようと思い作ったものです。ご自分の属されている会合等で配れるという委員は、必要な部数をお持ち帰りください。チラシについては、他の分科会の委員が同じ団体に既に配布していることも考えられますので、こちらの表にどこの団体に何部配る予定なのかを書いて下さい。表の記録を見ていただいて重複を避けて、持ち帰ってください。

次回ですが、2月9日(木)午後6時30分から8時30分で、同じ研修室が会場になります。(資料④)

最後に、配布資料の「企業とNPOの子育て支援協働推進セミナー2006・東京」(資料⑦)の説明です。これについては、杉山委員から説明いただきます。

◎：(杉山)

日本フィランソロピー協会という団体がありまして、企業との社会貢献のことを主題にしている団体です。去年から次世代育成を検討するようになったということです。厚生労働省の雇用機会均等・児童家庭局長だった岩田喜美枝さん、現在は資生堂にいらっしゃる方が基調講演をして、少子化対策が今どうなっているのかを厚生労働省の度山室長が話をしてくださいます。おふたりの話を聞くと国の動向とか、今新宿区が次世代育成支援を行っているのは、どういう理由からなのかが把握できるのではないかと思います。

す。次に、懇談会に移ると、子育て支援をテーマにした第1分科会のコーディネータを私がさせていただきます。富士通総研の渥美さんは、企業の働き方の問題などを専門にしており、パソナフォスターの佐藤さんは、ベビーシッターの会社を経営されて、企業内保育所の運営の話をしていただく予定です。古野さんは、地域で子育て支援を積極的に行っている方なので、聞きがいがあると思います。

また、第3分科会で新宿区立大久保小学校の校長先生が、パネリストで参加しています。聞くとところによると、このセミナーの第1分科会は、そろそろ満席になるそうなので、ぜひ第3分科会にもご応募していただけたらと思います。

最後に、1月21日に開催した「子育て支援のひろばづくりとNPOのマネジメントについて」の補足です。「ゆったりーの」の小原委員が、「ゆったりーので、区外の一般の方とか、他の地域で子育て支援について活躍されている方を呼んで、こうした勉強会ができるなんて思いもしませんでした。」とおっしゃっていました。「でも、そのようなことをやろうと思えばできるのが新宿です。日本の新宿区なのです。」と私は思います。一応、私はネットワークを持っているので、皆さんがやろうと思えばできるし、こういったように新宿区という地域で色々なことをやらせていただけたらと思います。ですから、すごく良いものをいっぱい持っているし、この新宿区のを地方の方や区外の方に発信してほしいと思います。もちろん、区民会議というこのノウハウもすごいものなのです。皆さんはあんまり自覚されていないと思いますが、区との共同で、自分たちが今やっている検討内容を外に向かってもっともっと発信していただけたらと思いました、とても期待しています。よろしくお願いします。

●：(司会 高山)

それでは、今日の会議は終了とさせていただきます。

第16回

日時：平成18年2月9日(木)

午後6時30分から午後8時30分 予定 (夜間)

場所：区役所第1分庁舎 7階研修室

第17回

日時：平成18年2月16日(木)

午後6時30分から午後8時30分 予定 (夜間)

場所：「ゆったりーの」